

第一号議案

平成14年度活動報告

1. 分科会

1.1 システム技術分科会

企画委員 (印 :まとめ役) (敬称略)		進め方
会 員	富士通	
長谷川明生 (名大基盤) 苅田幸雄 (高エネ研計算) 国吉 光 (東京電機大) 鈴木富男 (理研)	尾川正美 (システムインテグレーション事業本部) 川妻庸男 (システムサポート本部システム技術統括部) 那須野洋一 (システムサポート本部ネットワークサポート統括部) 松村直己 (プラットフォーム事業推進本部事業戦略室) 久門耕一 ((株)富士通研究所 IT コア研究所)	第1回会合： 8月1日(東京) 第2回会合： 10月30日(神戸) [合同分科会]
活動方針および活動内容		
1. 活動方針 <p>会員機関では、独立法人化や組織の統合再編などを見据え、機関内のあらゆる情報基盤の運用主体としての責任が高まっている。システムの構築・運用に当たっては今まで以上の安定性、効率的な業務遂行が求められる流れに有る。これらを背景に、システムインフラ、ネットワーク関連事項、システムの運用などに関連した事項についてタイムリーなテーマを取り上げ、情報提供と会員間の議論の場を提供し、現状の問題解決と将来の方向性を検討していく。</p>		
2. 活動内容 (敬称略)		
2.1 第1回 [メインテーマ：ネットワーク構築管理とセキュリティ] (科学技術計算と連続開催) 《参加状況 82名》 <ol style="list-style-type: none">(1) 安全なギガビットネットワークシステムの構築と管理の現状」(京都大学学術情報メディアセンター 高倉弘喜)(2) 学内ネットワーク管理運用支援システムの使用経験について」(九州芸術工科大学 藤村直美)(3) 理化学研究所ネットワークの事例紹介」(理化学研究所 吉田充)(4) 「ネットワーク再構築・セキュリティと管理」(高エネルギー加速器研究機構 湯浅富久子)(5) 富士通報告 「侵入検知システム(IDS)の最新動向」((株)富士通研究所 鳥居悟)		
2.2 第2回 [メインテーマ：無線LAN] (合同分科会の分科会セッション) 《参加状況 35名》 <ol style="list-style-type: none">(1) 富士通報告 「無線LANの動向」(富士通(株) 宮島茂/坂井正徳)(2) 「無線LANとシームレスモバイルインターネット」(モバイルインターネットサービス(株) 太田昌孝)(3) 「ニフティの無線LAN/ホットスポットサービスへの取り組み」(ニフティ(株) 井崎直次)(4) 分科会等懇談会 「on IP」 IP上で実現出来るもの ～ 電話,テレビ,etc.. ～ 」		

1.2 研究教育環境分科会

企画委員 (印 :まとめ役) (敬称略)		進め方
会 員	富士通	
矢島鎗司 (国土館大) 佐藤隆士 (大阪教育大) 家本 修 (大阪経済大) 山本 登 (日大工学部)	遠藤彰一 (株)富士通大分ソフトウェアラボラトリ) 役 誠雄 (システムインテグレーション事業本部 第三システムインテグレーション事業部) 長田茂美 (株)富士通研究所) 宮本茂明 (株)富士通北陸システムズ)	第1回会合 : 9月6日(東京) 第2回会合 : 10月30日(神戸) [合同分科会]
活動方針および活動内容		
<h3>1. 活動方針</h3> <p>2009年の「大学全入化の時代」を控え、各大学は研究面においては「21世紀COE (Center of excellence)」、教育面では「雇用対策のための社会人100万人受入」など生き残りのために様々な挑戦に懸けている。</p> <p>その挑戦の一つにオンキャンパスでの教育からインターネット、イントラネット空間を利用した新しい教育形態であるe-Learningを模索し積極的に取り入れようとする流れがある。</p> <p>本分科会では、e-Learningが大学教育で定着するのかをメインテーマに、現状のe-Learningに関する認識合わせをした上で、先進的な事例研究を通じてその将来像を検討する。</p>		
<h3>2. 活動内容 (敬称略)</h3> <p>2.1 第1回 メインテーマ : e-Learning は定着するのか? - e-Learning とは何か - <small>《参加状況 :71名》</small></p> <p>(1) 高等教育におけるe-Learningの現状と将来 -アメリカと日本- (メディア教育開発センター 吉田 文) (2) 米国のe-Learning最新事情 (大阪経済大学 家本 修) (3) 製品紹介およびデモ 「Internet Navigware V7.0 ご紹介」 「eラーニング向け教材映像マネージメントシステム ご紹介」 「情報系専門科目での試行例」 (4) 教材の標準化動向 SCORM (株)富士通インフォソフトテクノロジー 高橋和彦) (5) FUJITSU ユニバーシティの設立と取組み (富士通(株) 山村 弘)</p> <p>2.2 第2回 メインテーマ : e-Learning は定着するのか? - e-Learning の可能性を探る - <small>(合同分科会の分科会セッション) 《参加状況 :44名》</small></p> <p>(1) 立命館大学におけるe-Learningの取組み (立命館大学 川口清史) (2) 信州大学インターネット大学院におけるマルチメディア教材の利用と履修状況について (信州大学 不破 泰) (3) 富士通が提案するe-Learningソリューション (富士通(株) 役 誠雄) (4) 分科会懇談会 「e-Learning環境の構築と運用」</p>		

1.3 科学技術計算分科会

企画委員 (印 :まとめ役) (敬称略)		進め方
会 員	富士通	
藤井孝藏 (宇宙研) 金澤正憲 (京大学術) 姫野龍太郎 (理研) 野田松太郎 (愛媛大工学部)	奥田 基 (ソリューション事業本部計算科学技術センター) 大空 瞭 (ソフトウェア事業本部) 向笠 滋 (エンタプライズシステム事業本部) 小野英司 (ソリューション事業本部西日本システム統括部)	第1回会合： 8月 2日(東京) 第2回会合： 10月30日(神戸) [合同分科会]
活動方針および活動内容		
<h4>1.活動方針</h4> <p>科学技術計算分野のコンピュータ技術はすさまじい勢いで進化しつつあり、利用者の期待も高まる場所である。会員機関でも、従来のベクトル並列機、汎用サーバ等のシステムに加え、大規模スカラサーバ、PC クラスタといった最新サーバの導入例が多く見られ、その傾向は今後さらに拡大されると思われる。</p> <p>本分科会では、これらを背景に、現在および今後、会員機関が必要とするであろう、これら最新サーバを利用する技術について、その運用、性能の両面から議論を深め、現状の問題解決と将来の方向性を検討していく。</p>		
<h4>2.活動内容 (敬称略)</h4> <p>2.1 第 1 回 【メインテーマ：HPC の最近の話題 - 並列処理技術の現状 -】 (システム技術と連続開催) 参加状況 :78 名</p> <p>(1) 「Origin3800 システムにおける大規模シミュレーション・可視化処理事例」 (日本原子力研究所 井戸村泰宏) (2) 「VPP5000 を使用した結合コンパ外差分法による流体計算」 (名古屋大学情報連携基盤センター 石井克哉) (3) 「TBL 紹介」 (日本原子力研究所 福田 正大) (4) 「PC クラスタシステムとその性能 -富士通の 1U サーバと Blade 製品ご紹介-」 (株)富士通研究所 久門耕一) (5) 「Columbus/HPC について ~性能を中心に~」 (富士通(株) 新庄直樹)</p> <p>2.2 第 2 回 【メインテーマ：見えてきた最新並列技術】 (合同分科会の分科会セッション) 参加状況 :72 名</p> <p>(1) 「PC クラスタ用並列化 BLAST の実力」 (大阪大学 安永照雄) (2) 「PC クラスタバイヤーズガイド ~ PC クラスタWG より~」 (理化学研究所 姫野龍太郎) (3) 「有限要素法コードによるスカラ SMP(GP7000F)の性能評価 ~スカラ並列技術 WG より~」 (理化学研究所 白崎 実) (4) 「PRIMEPOWER HPC2500 ~性能およびチューニングについて~」 (富士通(株) 青木正樹) (5) 分科会懇談会「これからのセンターサーバは?」</p>		

1.4 合同分科会

企画委員 (印 :まとめ役) (敬称略)		進め方
会 員	富士通	
松澤照男 (北陸先端大) 佐藤一雄 (防災研) 阪井和男 (明治大) 三上市藏 (関西大)	清水大三 (システムインテグレーション事業本部) 是友春樹 (ネットワーク事業本部) 長屋忠男 (エンタプライズシステム事業本部ソフトウェア開発統括部) 倉田正士 (システムインテグレーション事業本部) 大山幸信 (システムインテグレーション事業本部 第三システムインテグレーション事業部)	10月30日 ~10月31日 (神戸)
活動方針および活動内容		
<h3>1.活動方針</h3> <p>会員が一堂に会する機会を捉え、昨年に引き続き、今後の科学技術分野での情報システムの方向性を模索できる共通性のあるメインテーマを選定し、情報交換が活発に行われる活動を目指す。今年度のメインテーマは、「サイエンティフィック・コンピューティング環境を考える」とし、高速ネットワーク時代における研究開発環境について討議、情報交換を行う。</p> <h3>2.活動内容 (敬称略)</h3> <p>【メインテーマ：サイエンティフィック・コンピューティング環境を考える】 (参加状況 251名)</p> <p>【1日目】</p> <p>会長挨拶 永安会長 開催趣旨 松澤企画委員 特別講演：『現代の物質観 ~素粒子論が歩んできた道~』(京都大学 益川敏英) 分科会セッション：分科会等懇談会までの時間を含めて、バラブルで実施。 システム技術分科会第2回会合 研究教育環境分科会第2回会合 科学技術計算分科会第2回会合</p> <p>【2日目】</p> <p>特別報告：『ALL-IPが拓く次世代ITシステム』((株)富士通研究所 取締役 宮澤君夫) 話題提供： ・『早稲田大学の情報関連組織とその課題について』(早稲田大学法学部 原田康也) ・『大型計算機センターというものについて』(名古屋大学情報連携基盤センター 長谷川明生) ・『つくばWANとは』(つくばWAN事務局 鈴木正則) ・『教育の情報化における海外の事例から』(大阪経済大学経営情報学部 家本 修) 討論会：『組織を超えたグローバルサービスの実現』 コーディネータ 阪井和男 (明治大学)、パネリスト 話題提供者 リサーチ・エキジビット/デモ：会員出展2件、富士通出展16件。 一般報告：『統合シミュレーションシステムと第一期シミュレーションシステムの構築』(航空宇宙技術研究所 岩宮敏幸) WG等報告： Grid ComputingWG SMPクラスタWG SS研ユーティリティ報告 文化講演：『日本語力と身体感覚を鍛える』(明治大学 斎藤 孝) まとめ 松澤企画委員</p>		

1.5 HPC ミーティング 2002

企画委員 (印 :まとめ役) (敬称略)		進め方
会 員	富士通	
蕪木英雄 (原研) 青柳 睦 (岡崎研) 中村 壽 (高度情報) 戎崎俊一 (理研)	門前弘邦 (システムインテグレーション事業本部科学システム統括部) 堀田耕一郎 (ソフトウェア事業本部開発企画統括部) 三浦謙一 (株)富士通研究所) 海野 昇 (株)富士通中部システムズ)	10月31日 ~11月1日 (神戸)
活動方針および活動内容		
<p>1. 活動方針</p> <p>ギガビットのネットワーク環境の構築が進められる中、Gridは現在スーパーコンピューティングの世界で最も重要なキーワードである。この技術は、地理的に分散されているコンピュータ、データ、実験施設、可視化施設等をネットワークにより結合することによって、大規模な応用の実現、データの共有等を目指すものである。特に異なる種類の計算機、施設等が分散して存在しているネットワーク環境におけるメタコンピューティング技術の確立は、今後HPCアプリケーションにも大きな影響を及ぼすものと予想される。しかし現在アプリケーションのレベルにおいては、例えば高速のネットワークが実現されたとしても通信のレイテンシの問題を如何に克服するかが重要な課題である。今回のHPCミーティングでは物質、材料、生体等様々な分野においてGridコンピューティングを試みている方の講演を中心にして、今後のHPCアプリケーションにおけるGridの将来について議論する。</p> <p>2. 活動内容 (敬称略)</p> <p>【メインテーマ :Grid へ向けての HPC アプリケーション】 参加状況 :160 名》</p> <p>(1) 富士通役員挨拶 「HPCシステムへの取り組み」 (富士通(株) 執行役 青木隆)</p> <p>(2) 海外招待講演 「Enabling Grid Applications」 (Ed Seidel, Albert-Einstein-Institut, Germany)</p> <p>(3) 一般報告 ・「グリッド技術の夢と現実」 (産業技術総合研究所グリッド研究センター 関口智嗣) ・「天文グリッド~ データベース天文学に向けて~」 (国立天文台 水本好彦) ・「サノGridの現状と将来」 (九州大学情報基盤センター 青柳睦) ・「バイオグリッドプロジェクト」 (大阪大学サイバーメディアセンター 下條真司)</p> <p>(4) 富士通報告 「Production Grid Computing」 David Snelling, Fujitsu Laboratories of Europe</p>		

2.WG

2.1 ネットワーク時代の統合ストレージマネジメントWG

企画委員 (印 :まとめ役) (敬称略)		進め方
会 員	富士通	
松澤照男 (北陸先端大) 水本好彦 (国立天文台) 磯 直行 (中京大) 敷田幹文 (北陸先端大) 鈴木富男 (理研)	小野英司(ソリューション事業本部西日本システム統括部) 五十嵐功(エンタプライズシステム事業本部ストレージソフトウェア事業部) 松本一志(エンタプライズシステム事業本部ストレージソフトウェア事業部) 斎藤信二(システムインテグレーション事業本部第三SI事業部) 瓦井健二(システムインテグレーション事業本部科学システム統括部)	【会合】 年 4 回程度 第 5 回会合 : 6 月 6 日 第 6 回会合 : 9 月 12 日 第 7 回会合 : 12 月 13 日 第 8 回会合 : 2 月 25 日 【活動期間】 2 年(H13-H14)
活動方針および活動内容		
<h4>1.活動方針</h4> <p>インターネットの利用増やデータのマルチメディア化に伴うデータ量増加への対応とデータへの安定したアクセス確保の重要性の要求の高まりと、ファイバーチャネルの普及やLANの速度向上 (100Mbps 10Gbps 等の基盤技術の進歩により、ネットワークを活用したストレージシステムであるSAN (Storage Area Network) およびNAS (Network Attached Storage) が注目されている。また、データへの安定したアクセスの確保には、各種の障害や保守などによる中断時間の短縮を実現する「高可用性」が必須の要件であり、また、運用管理・バックアップ・データ共有・ストレージの仮想化など運用性向上を目指す「統合ストレージマネジメント」が望まれる状況となっている。</p> <p>そこで、本WGでは、会員機関におけるストレージシステムの現状を踏まえ、「高可用性ストレージシステム」の構築に向けての必要事項の検討を行なうとともに、各会員へのノウハウの共有化を図ることを目的とする。</p> <p>特に、注目度の高いSAN/NASを主眼とし、「高可用性」、「統合ストレージマネジメント」をキーワードとして、その課題の洗い出しを行い要求事項、留意事項を明確にする。</p>		
<h4>2. 活動目標/スケジュール</h4> <p>本WG活動の具体的な検討内容は、以下の通りとし、活動2年目の今年度は、(4)～(6)項を目標として活動する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 現状の問題点の整理 (性能、構成、ユーザ管理、マルチベンダー等) (2) 利用モデルの構築 (教育利用環境モデル/研究利用環境モデル) (3) 利用モデルごとの課題と要件の整理 (性能/構成/ユーザ管理/ストレージ仮想化 / 可用性等) (4) SAN/NASの共存の可能性検討 (5) SAN/NASのヘテロ環境での対応検討 (6) システム全体としての課題と対策の検討とベンダーへの要求の整理 		
<h4>3. 活動内容</h4> <p>3.1 第 5 回会合 (参加状況 :会員 5 名、富士通 8 名)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.これまでの活動の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ SAN/NAS システムへの要件と課題のまとめ ・ モデル構成案 2.これからの活動スケジュールの検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 14 年度活動計画 ・ ガイドライン目次案 <p>3.2 第 6 回会合 (参加状況 :会員 5 名、富士通 8 名)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.SGI CXFS に対する富士通側コメント 2.天文台モデル構成案検討 3.大学モデル構成案検討 4.ヘテロ環境への考え方 5.成果報告書作成に向けて <p>3.3 第 7 回会合 (参加状況 :会員 5 名、富士通 7 名)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.富士通情報提供「ストレージソリューションのご紹介」 2.検討結果報告書の作成について <p>3.4 第 8 回会合 (参加状況 :会員 5 名、富士通 9 名)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.検討結果報告書レビュー 2.次年度新規 WG について 		

2.2 PC クラスタWG

企画委員 (印 :まとめ役) (敬称略)		進め方
会 員	富士通	
姫野龍太郎 (理研) 真鍋 篤 (高エネ研計算) 庄司 誠 (原研) 石井光雄 (広島大)	石田伯夫(システムインテグレーション事業本部 科学システム統括部) 大空 瞭 (ソフトウェア事業本部) 市川真一 (ソリューション事業本部 計算科学技術センター) 久門耕一 ((株)富士通研究所 IT コア研究所)	【会合】 講演会 : 5月24日 第6回会合 : 9月4日 資料レビュー会 : 10月30日 第7回会合 : 12月4日 資料レビュー会2 : 2月25日 【活動期間】 2年(H13-H14)
活動方針および活動内容		
<p>1. 活動方針</p> <p>PCクラスタ¹は複数台のPCをネットワークを介して接続してシステムを構成するメモリ分散型の並列計算機である。PC単体の性能向上は著しく、低価格化も進んでおり、非常にコストパフォーマンスの良い計算機でもある。このため、一部の先進的なユーザが導入し、使い始めている。ハード、ソフト上絶大なコストパフォーマンスが得られる一方、一から十まで、自主独立・自己責任であるため、PCマニアでない普通の研究者が、PCクラスタを使うバリアは高い。さらに、自らの作業量を含めたトータルコストを考えると、決して手放しで歓迎できるものではない。また、大規模な構成になると、小規模な構成では目につきに↓問題点も多々上がっている。</p> <p>上記のような障壁や問題点は各サイトレベルでは解決が困難なことも多く、WGの活動を通して、保守サービスも含めた形で、なんらかの解決を図りたい。必要に応じ、適宜ベンダ側への要望をまとめる予定である。また、同時に中小規模のシステムでは効果がはっきりしているため、システムの設計や運用にあたっての注意すべきポイントを整理し、普及にも努力する。</p> <p>*1: 市販されている普通のパソコンを集めたものと、ラックに設置するサーバタイプで構成されたものがある。</p> <p>2. 活動内容 (敬称略)</p> <p>2.1 講演会 [テーマ: PCクラスタが拓く新たなComputingの世界] (参加状況:131名)</p> <p>(1) Keynote Speech 「インテルのエンタープライズ・プロセッサ「テクノロジ」(インテル(株) 平野浩介)</p> <p>(2) PCクラスタとSCore入門」(東京大学 石川裕)</p> <p>(3) 富士通報告 「PRIMERGYブレードサーバご紹介」(富士通(株)IAサーバ事業部 木村敏幸)</p> <p>(4) 「PCクラスタの光と陰」(理化学研究所 姫野龍太郎)</p> <p>(5) 「旧産自動車におけるPCクラスタのCFDへの利用」((株)富士通長野システムエンジニアリング 野田茂穂)</p> <p>2.2 第6回会合 (参加状況:25名)</p> <p>(1) Hammer^(TM) AMD's Vision of the 64-bit Future」(日本AMD(株) 小島洋一)</p> <p>(2) PCクラスタシステムとその性能」((株)富士通研究所 久門耕一)</p> <p>2.3 資料レビュー会 成果報告書の目次体系を整理。</p> <p>2.4 第7回会合 (参加状況:合計 31名)</p> <p>(1) 「ペタバイトスケールデータインテンシブコンピューティングのためのGrid Datafarmアーキテクチャ」(産業技術総合研究所グリッド研究センター 建部修見)</p> <p>(2) SystemcastWizard Professional V2.2」(富士通(株)IAサーバ開発部 中村実)</p> <p>(3) PRIMERGY FTサーバご紹介(富士通(株)IAサーバ開発部 中村 実)</p> <p>2.5 資料レビュー会2 WG成果報告会(5/9)に向けて成果報告書のレビューを実施。また次年度以降の活動を検討。</p>		

2.3 SMP クラスタWG

企画委員 (印 :まとめ役) (敬称略)		進め方
会 員	富士通	
福田正大 (原研) 藤井孝藏 (宇宙研) 遠藤高帆 (遺伝研) 高木亮治 (航技研) 重谷隆之 (理研)	市川真一 (ソリューション事業本部計算科学技術センター) 青木正樹 (UI/UE事業本部開発企画統括部) 菅谷敏章 (システムインテグレーション事業本部科学システム統括部)	【総合】 年 3-4 回程度 第 1 回会合 : 7 月 30 日 第 2 回会合 : 11 月 12 日 第 3 回会合 : 3 月 18 日 【活動期間】 2 年程度 (H14-H15)
活動方針および活動内容		
<h3>1. 活動方針</h3> <p>HPC分野の計算エンジンとなるスーパーコンピュータは従来、ベクトル型アーキテクチャによって実現されてきたが、半導体技術の進歩は目覚ましく、SMP (Symmetric Multi-Processor) を要素とする分散主記憶型の並列計算機がそれに代わろうとしている。このような背景から、『スカラ並列技術WG』では、会員プログラムをベースに、各種分野において、SMP計算機で高い並列処理効率を得るためのプログラミング技術、チューニング技術の検討 評価を2年間にわたって行ってきた。これについては、多くの成果を達成した。成果については、報告書等で会員にも公開している。</p> <p>一方で、プログラミング技術、チューニング技術の評価が進むに従い、単なる評価にとどまらない、アプリケーションとSMP構成 (大規模SMP / クラスタ構成) の親和性等、SMP利用指針検討の必要性が台頭してきた。</p> <p>当WGは、このような利用指針の検討、実プログラムの評価を更に進め、HPC分野でのSMP計算機利用に向けて、利用技術 (プログラミング技術、チューニング技術)、利用指針の明確化・共有化を図るとともに、今後の課題を明確にする。</p>		
<h3>2. 活動内容 (敬称略)</h3> <h4>2.1 第 1 回会合 《参加状況 : 会員 8 名、富士通 5 名》</h4> <p>(1) WG 活動についての検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動内容、成果物、測定マシン、評価プログラム、スケジュール 等 <p>(2) 富士通からの報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新 PROMEPOWER のハートおよび推奨構成等について、チューニングツールの評価について <p>(3) チューニングガイドのエンハンスについての検討</p> <h4>2.2 第 2 回会合 《参加状況 : 会員 8 名、富士通 5 名》</h4> <p>(1) 航技研からの報告と、それに基づく検討</p> <p>(2) 遺伝研からの評価プログラム紹介</p> <p>(3) 富士通からの報告と、それに基づく検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ EPCC OpenMP MicroBenchmarks の紹介、PRIMEPOWER HPC2500(性能&チューニングツール)について、スカラ SMP クラスタシステムについて 等 <h4>2.3 第 3 回会合 《参加状況 : 会員 7 名、富士通 5 名》</h4> <p>(1) 富士通からの報告と、それに基づく検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ EPCC OpenMP MicroBenchmarks の説明、CPU 間のキャッシュライン競合、XPFortran の並列化効果の頭打ち <p>(2) チューニングガイドの改版検討</p> <p>(3) 測定結果の報告と、それに基づく検討 (UPACS、HimenoBMT、有限要素法) 等</p> <h4>2.4 その他 : 分科会での関連報告</h4> <p>(1) 科学技術計算分科会第 2 回会合(10 月 30 日)にて「有限要素法コードによるスカラ SMP 計算機 (GP7000F) の性能評価 -スカラ並列技術WG より-」<理研 白崎></p> <p>(2) 合同分科会(10 月 31 日)にて「SMP クラスタWG 報告」<富士通 市川></p>		

2.4 Grid Computing WG

企画委員 (印 :まとめ役) (敬称略)		進め方
会 員	富士通	
福田正大 (原研) 松澤照男 (北陸先端大) 姫野龍太郎 (理研)	森重博司 (リユ-ション事業本部計算科学技術センター) 堀田耕一郎 (ソフトウェア事業本部開発企画統括部) 岸本光弘 ((株)富士通研究所 IT コア研究所)	【会合】 年 4 回程度 準備会 6月 11日 第 1 回会合 9月 11日 第 2 回会合 1月 15日 企画会議 3月 25日 【活動期間】 2 年程度(H14-H15)
活動方針および活動内容		
<p>1. 活動方針</p> <p>高速ネットワークを介して、パソコンから高性能コンピュータ、大容量データセンター、可視化装置、観測装置等を連携させ、計算資源の共有、データの共有、人的資源の共有を図り、スーパーコンピュータの計算能力を実現しようという Grid Computingが、今注目を集めている。会員間でも、スーパー SINETの運用開始、ITBLのサービス開始に伴い、Grid Computingに対し、大きな関心が集まっている。Grid Computing環境の構築・利用にあたっては、インフラ、ミドルウェア、アプリケーション等で検討課題が山積しており、会員間の技術情報・ノウハウの共有が重要である。</p> <p>当WGは、会員機関でのGrid Computing環境の構築・利用に向けての必要事項の検討を行い、要求事項および課題を明確化するとともに、各会員へのノウハウの共有化を図る。</p> <p>2. 活動方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Grid Computing環境の構築・利用について検討事項を討論し、検討対象を絞り込む。 ・ 絞り込まれた検討対象について、要求事項・課題・対応策を討論し、取りまとめる。 <p>3. 活動内容 (敬称略)</p> <p>3.1 第1回会合 SS研オープン開催 (参加状況 53名)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) Globus/Java を用いたシステムの紹介 (金沢大学 小橋博道) (2) PC クラスタとWEB サーバ間のポータル事例 (理化学研究所 福井義成) (3) グリッド協議会の紹介 (理化学研究所 姫野龍太郎) (4) グリッド研究センターの紹介 (産業技術総合研究所 横川三津夫) (5) GGF5 報告 ((株)富士通研究所 岸本光弘) <p>3.2 第2回会合 SS研オープン開催 (参加状況 39名)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) グリッドミドルウェアについて (富士通(株) 森屋光弘) (2) Problem Solving Environment としての Cactus コード (理化学研究所 真貝寿明) (3) ITBL 計画と基盤ソフト (日本原子力研究所 樋口健二) (4) フリーディスカッション (司会 (株)富士通研究所 三浦謙一) 		

3.委員会

3.1 ニュースレター編集委員会

企画委員 (印 :まとめ役) (敬称略)		進め方
会 員	富士通	
佐藤一雄 (防災研) 蕪木英雄 (原研) 野田松太郎 (愛媛大工学部) 佐藤隆士 (大阪教育大) 鈴木富男 (理研) 三科 淳 (高エネ研物構研)	市川和芳 (システムインテグレーション事業本部 科学システム統括部)	【会合】年1-2回 第1回会合：7月23日

活動方針および活動内容

1. 活動方針

ニュースレター (会報) の内容の充実/早期発行、ホームページ上での見やすさ/使い勝手の向上、および年1回のCD-ROM 発行、「ニュースレター選集2003」の発行に向け、活動を推進する。

2. 活動内容

2.1 第1回会合 《参加状況 :会員4名、富士通1名》

- (1) 委員会および委員の役割の検討
編集方針、レビュー手順 等
- (2) 『SS研ニュースレター選集2003』の編集についての検討
編集方針、各分科会への原稿選定依頼 等
- (3) ニュースレターCD-ROM(vol.6)作成に向けての検討
掲載コンテンツ、作成手順、配布先 等

2.2 その他

- ・ ニュースレター編集会議およびホームページ公開前に、原稿レビューを適宜実施中。
- ・ ニュースレターCD-ROM の送付先を、原則1会員1枚となるよう調査実施。

ニュースレター(HP)公開実績

平成14年度活動については、すべて公開済。

内 容	会合開催日	公開日
システム技術分科会第1回会合	平成14年8月1日	平成14年10月4日
科学技術計算分科会第1回会合	平成14年8月2日	平成14年9月9日
研究教育環境分科会第1回会合	平成14年9月6日	平成14年10月18日
システム技術分科会第2回会合	平成14年10月30日	平成15年1月22日
科学技術計算分科会第2回会合	平成14年10月30日	平成14年12月17日
研究教育環境分科会第2回会合	平成14年10月30日	平成14年12月18日
合同分科会	平成14年10月30-31日	平成15年3月11日
HPC ミーティング	平成14年11月1日	平成15年2月17日

ニュースレターCD-ROM 版

- (1) vo.5 (平成13年度版) : 2002年7月発行済
- (2) vo.6 (平成14年度版) : 2003年5~6月発行予定

ニュースレター選集2003 : 2003年5月9日発行

3.2 セキュリティガイド委員会

企画委員 (印 :まとめ役) (敬称略)		進め方
会 員	富士通	
長谷川明生 (名大基盤) 湯浅富久子 (高工ネ研計算) 久野哲也 (原研) 山守一徳 (三重大) 吉田 充 (理研)	本橋敦彦 (システムインテグレーション事業本部 第三システムインテグレーション事業部) 西見俊彦 (システムサポート本部 セキュリティサービス統括部) 三谷 修 (システムインテグレーション事業本部 科学システム統括部)	【会合】 1回程度 第1回会合 9月27日 【成果(セキュリティガイド)】 年に1~2回の更新を 目指した活動を実施
活動方針および活動内容		
<h3>1.活動方針</h3> <p>従来、会員所属機関でのクラッカー等によるアタックの事例が度々露見され、その猛威は衰えることなく依然と続いている。</p> <p>これに対する確実な管理手段や対応方法などの整理が必要とされ、平成11年度より「ネットワークセキュリティWG」を開設、Solarisでのネットワークサーバの構築/運用ノウハウを「セキュリティガイド」としてまとめ、公開した。</p> <p>整理した情報の範囲は、サーバ管理者の一通りのノウハウを網羅しており、セキュリティガイドは発行当時より利用者より高い支持を得てきた。</p> <p>引き続き継続的な情報の公開が会員全体にとって有益と考え、平成14年度より、WGを委員会に改め、セキュリティガイドの更新活動を行う。</p> <h3>2. 活動内容</h3> <h4>2.1 成果物 (ネットワークとワークステーション管理のためのセキュリティガイド)</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第3版 (平成14年5月10日 発行) <ul style="list-style-type: none"> 1.3章 「ガイドの補足」 3.1.4.4章 「ウイルスチェックサーバ」追加 各種付録追加 (Swatchインストール手引、物理セキュリティ、無線LAN製品一覧、認証・暗号化 他) ・ 第3.1版 (平成14年7月8日 発行) <ul style="list-style-type: none"> 付録追加(メール爆弾対策設定例) ・ 第3.2版 (平成14年9月6日 発行) <ul style="list-style-type: none"> 付録更新(inetd.conf 設定資料) ・ 第4版 (平成15年5月9日までに発行予定) <ul style="list-style-type: none"> 1章更新 各種付録追加・更新 (Postfix,nmap,nessus,saint,MRTG,analog 等インストール手引) 他 ・ 第4.1版以降 ~ (発行日未定) <ul style="list-style-type: none"> 無線LAN/情報コンセント、ウイルスチェックサーバ運用事例、IIS、Windows <h4>2.2 会合</h4> <p>第1回会合 《参加状況 :会員5名、富士通3名》</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 活動計画、改版履歴の確認 (2) セキュリティガイド利用状況の確認 (3) 改版内容の検討 		

3.3 広報委員会

企画委員 (印 :まとめ役) (敬称略)		進め方
会 員	富士通	
藤村直美 (九州芸工大) 金澤正憲 (京大学術)	尾川正美 (システムインテグレーション事業本部)	メーリングリスト中心 【会合】 必要に応じて年1回程度 第1回会合：6月28日 (東京)
活動方針および活動内容		
<p>1.活動方針</p> <p>平成13年度まで、電子化情報運営委員会、SS 研ユーティ運営委員会の2つの委員会で、電子化情報システム規定 / セキュリティポリシー / SS研ユーティ活動規約等のルール作り、会員に利用してもらうためのシステム作り等を行ない、SS研ホームページを中心とする情報交換 / 情報発信のための利用環境の充実を図ってきた。</p> <p>平成14年度からは、この2つの委員会を「広報委員会」に集約し、会員の参加促進 / 電子化情報利用環境の活用促進に向けて、SS研の広報に関する検討、および上記の規約 / 規定 / ポリシー等のルールの維持 / 改訂を実施する。</p> <p>2. 活動内容</p> <p>2.1 会合 第1回会合 《参加状況 :会員2名、富士通1名》 (1) 活動方針の検討 ・メーリングリストを中心とした活動を実施する。</p> <p>2.2 検討内容 各種規約の維持 改訂を実施 (1) 「SS 研電子化情報システム」に関するセキュリティ ポリシー (2) 電子化情報システム規定 (3) SS 研サーバ細則</p> <p>なお、SS 研ユーティに関する実作業は、ユーティ・サブグループが行う。</p>		

3.4 広報委員会 - SS研ユーティサブグループ

企画委員 (印 :まとめ役) (敬称略)		進め方
会 員	富士通	
金澤正憲 (京大 学術) 三科 淳 (高工ネ研物構研) 中村 孝 (航技研)	藤野誠治 (株)富士通総研) 長尾源承 (西日本営業本部関西支社) *9月末まで活動。所属は当時。 斉藤 哲 (リユ-シヨ-ン事本部西日本システム統括部)	【会合】年2回程度 第1回会合 9月26日(東京) 第2回会合 1月22日(東京)
活動方針および活動内容		
<p>1.活動方針</p> <p>SS研ホームページが提供するサービスのひとつであるSS研ユーティにより、会員間の情報流通を活性化すべく、会員が作成したユーティおよび関連情報(プログラム、利用の手引き等のドキュメント、リンク集 等)の充実と利用促進を図る。</p> <p>2. 活動内容</p> <p>2.1 第1回会合 《参加状況 :会員3名、富士通4名》</p> <p>(1) 利用促進に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データライブラリのカテゴリおよびその名称の検討 ・アンケート集計結果の公開の検討 等 <p>(2) 合同分科会での広報活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『SS研ユーティ報告』実施についての検討 ・表彰、デモの実施についての検討 等 <p>2.2 第2回会合 《参加状況 :会員2名、富士通3名》</p> <p>(1) 利用促進に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ発掘作業に向けた検討 ・ホームページの一部オープン化についての検討 ・リンク集の整理に向けた検討 等 <p>(2) 次年度活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユーティの作成についての検討 (情報交換の場の提供にとどまらず、ユーティへのニーズを調査・検討し、ニーズにマッチするユーティがない場合、それを作成する) <p>2.3 その他</p> <p>(1) 合同分科会での『SS研ユーティ報告』実施 (10月31日)</p> <p>(2) 合同分科会の懇親会にて表彰式を実施 (10月31日)</p>		